

中学2年2組 音楽科学習指導案

指導者 椎 木 千 鶴

友だちの作品のよさや意見を参考にして、自分の作品を繰り返し聴きながら音の高さやリズム、音色を変える活動を設定したことは、自分の思いやイメージに近付ける作品にすることに有効であったか。

1 題 材 名 映像から感じた思いをメロディにしよう ～作曲ソフトを使って～

2 題材のねらい

音と音のつながりや音色がどんな雰囲気をもたらすのか感じ取る活動や、繰り返し聴きながら音の高さや音色を変えていく活動を通して、自分の思いやイメージを音楽にできる楽しさを味わうことができる。

3 授業の構想

- (1) 1年生では、2種類提示された詩から自分で一つ選び、4小節の旋律をつける活動を行った。詩に対する思いやイメージを旋律にすることで、短くはあるが、自分で曲をつくったことへの達成感を感じる生徒も多かった。以下に示すふりかえりは、その活動において創作をした際の最後の時間のふりかえりである。

- ・今回私が工夫したことは、言葉のイントネーションにメロディを合わせたり、その言葉を印象づけるために音を伸ばしたりするなどしたことです。イメージを音で表現するのは難しいなあと改めて思いました。(生徒A)
- ・スタッカートをとところどころつけて、私が感じた「子どもらしいイメージ」が出たと思います。音階を幅広く使うところでも、かわいい感じが想像できたと思います。1小節に決まった量を入れるのはとても難しかったです。(生徒B)

このふりかえりからは、詩から感じた思いやイメージを表すために、自分なりに工夫したことが読み取れる。

しかし、生徒Bの感想にもあるように、曲をつくるときに大きな壁となるのが記譜である。1小節にどの音符がどれだけ入るのか、どこに音符を書いたらいいのかなど、記譜の能力は生徒によって差があり、そのことが意欲の差にもつながっていたのではないかと感じる。しかし、分からないと悩みながらも、曲を何とかつくりたいという思いをもって取り組む生徒も多く見られた。

今回は題材として、生徒自身の中にある思いをもっと表現しやすいように、作曲ソフトを使うこととした。今までは記譜でつまずいて創作に苦手意識をもっていた生徒も、前向きに取り組むことができるものとする。自由に音を決め、音を出していく中で、音のつながり方を試しながら、旋律をつくっていく。また、創作の過程で他の生徒の作品からよさを見付け、自分の作品に取り入れることで、自分なりに工夫して表現していく力をはぐくみたい。

- (2) 本題材は、学習指導要領のA表現(3)イ「表現したいイメージをもち、音素材の特徴を生かし、反復、変化、対照などの構成や全体のまとまりを工夫しながら音楽をつくること」に関連させながら学習を進めていく。

学習を展開するにあたっては、作曲ソフト「Domino」を使って映像に合う音楽をつくることとする。作曲ソフト「Domino」は音の長さや高さを視覚的に把握しやすくなっており、旋律をつくる上での様々な抵抗を和らげることができる。たとえば、なかなか自分の思いを表現することが難しい生徒や楽器の

演奏が苦手な生徒、楽譜を読むことや書くことが難しい生徒にとって、比較的容易に作業を進めることができる。五線記譜への導入ソフトとしても有用だと考えられる。また、自分がつくったものをすぐに音にして聴いて確認することができる。自分の作品をその都度聴いて確かめることで、「自分のイメージとは違う」「もっとこうしたい」という自分の問いを瞬時に深めていくことができると思う。

この題材を通して、音にこだわりをもって思考・判断していく力を養うとともに、自分の思いを音楽にできる楽しさを感じさせたい。

(3) このように生徒の実態と本題材のもつ魅力を踏まえた上で、以下のように展開する。

創作経験の少ない生徒たちが、限られた時間で効率よく学習を進めるために、あらかじめ次の三つのことを設定する。曲の長さは8小節とし、テンポも設定しておき、コード進行は2パターンとし、二つのコード進行から選択できるようにする。また、「Domino」に連続した同じ音を打ち込んでおく。そうすることで、生徒が最初にそれを聴き「このままでは面白くない」「変えたい」「休みもほしい」などと感じ、音の高さや長さを変えることへの意欲を喚起したい。

授業では、まず映像につけられている音楽を映像を除いて聴き、どんな雰囲気か感じ取る。その際、音楽を形づくっている要素と結びつけて考える。ここでの気づきが、実際に自分で曲をつくるときの手がかりとなる。そのあと、実際にその音楽がつけられている映像を見せることで、自分が感じていた雰囲気と映像が合っているのかどうか、疑問や問いがうまれると予想する。そして、もう一度音楽をじっくり聴くことで最初には気づかなかった音楽を形づくっている要素と雰囲気との結び付きに気付くようにしたい。その上で音楽をつける映像を見て、自分なりの思いやイメージがもてるようにする。見せる映像は、景色といったものではなく、動きがありいろいろな思いが創出しやすいものとする。最初にもった思いやイメージが実際の音とどのように結びつくのか考える場面をもった後、創作に入る。創作では音を聴き、確認しながら進めるようにする。

第3時の終わりでは、それぞれがつくった曲をグループ内で鑑賞し、感じたことや気付いたこと、意見などを交換して、本時でのとりかかりがスムーズになるようにする。

本時では、前時で交わした意見等を振り返り、自分の思いやイメージに近付けるためには、さらに何をどのようにすればよいか考える時間をつくる。「〇〇さんの旋律は、私のより明るい雰囲気だと思う。それは高い音が多く使っているからかな。私もこの部分をもう少し明るい雰囲気にしたいくけど、高い音を使う以外にはどんなふうにしたらよいだろうか」など、自分を取り入れたいことを考え、さらに旋律に修正を加え、より自分の思いやイメージに近付けるよう推敲を重ねるように支援したい。ここでは、旋律を変えるだけでなく、音色を変えることも試みることができる。教師側で音色の表をつくっておき、自分の思いと合う音色を探すことにも挑戦できるようにしたい。旋律や音色を少しずつ変え、映像と旋律を流して聴くことで、どうしたら自分の思いやイメージにより近付いていくのか、何度も試行錯誤する姿を求めたい。

4 展開計画（全5時間 本時4／5）

次	主な学習	時	具体的な学習・活動
1	音楽による雰囲気の違いを感じ取ろう。	1	<ul style="list-style-type: none"> 映像につけられている音楽を映像を除いて聴き、どんな雰囲気か感じ取る。音楽を形づくっている要素と結びつけて考える。 作曲ソフト「Domino」に実際に音を打ち込んで、音を出してみる。
2	映像から感じた思いやイメージをメロディにしよう。	2 3 ④ 5	<ul style="list-style-type: none"> 旋律をつける映像を見て、自分なりの思いやイメージをもつ。 映像を見ながら8小節の旋律をつくる。 グループで聴き合い、お互いのよさや気づいたことを発表し合う。 友だちの作品や意見を参考にして、曲の手直しをしていく。 出来上がった作品を鑑賞し合う。(グループ、全体)

5 本時の学習

(1) ねらい

自分の思いやイメージにより近い旋律にしようと、友だちの作品や意見を参考にして、表現を工夫することができる。

(2) 展開

学習場面と子どもの取組	教師の支援と願い・評価
1. 本時の学習の見通しをもつ。	・本時の見通しがもてるように、本時の流れを提示する。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 0 auto; width: fit-content;">自分の思いやイメージにより近いメロディにしよう。</div>	
<p>2. 前時のお互いの旋律を聴き合って気付いたことや出た意見を振り返り、本時の課題を一人一人がつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・静かな雰囲気にしたけれど、ずっと静かな雰囲気ではなくて、最後は少し盛り上げたいが、どうしたらいいだろう。 ・〇〇さんのメロディは音色がピアノではなくて、雰囲気が全然違って聴こえたな。柔らかいイメージに合う音色を探そう。 <p>3. 自分の思いに近づくように旋律を直す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特に3, 4小節目を明るくしたいから、3小節目の3つの音を短くして繰り返してみよう。 ・自分はオルガンの音がいいと思ったが、映像の爽やかな雰囲気に合わせるためにはもっと軽い音がいいな。 <p>4. 何人かの旋律を聴き、感想を発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・メロディを直す前と比べて、最後は畳みかけるような感じになって盛り上がっていた。 ・音色が変わって、映像も明るい雰囲気から優しい雰囲気になった。 <p>5. 本時を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音色をもっと柔らかいものにする事によって、最初とほとんど同じメロディなのに、映像の雰囲気が変わって見えた。 ・音の高さを少し変えることで、メロディ全体の雰囲気が変わった。次の時間は音の長さも変えてみたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・もう一度、最初に映像を見たときに感じた思いやイメージに立ち返るよう声がけをする。 ・友だちの作品を聴いて、自分の作品とどのようなところが違っていたか、音の長さや高さ、音色に注目して、自分に取り入れられるところを考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・音を増やす、音の長さを変えるなどすることで、いろいろな旋律のパターンができることに気付けるようにする。 ・同じ音を繰り返すことで、よりその旋律を印象付けられることに気付けるようにする。 ・「Domino」にある音色の表を提示して、ただ音色を変えるのではなく、自分の思いに近い音色を探していくことを伝える。 ・何を変えたか、つくった生徒が発表し、聴く視点を与える。 ・最初につくったものと、その後手直したものを聴き比べ、どのように変わったか考えられるようにする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p style="text-align: center;">— 評価の観点（音楽表現の創意工夫） —</p> <p>自分の思いにより近い旋律にしようと、友だちの作品や意見を参考にして、自分の思いを表すためにどうしたらよいか音の高さや音色を変えるなどして試行錯誤している。</p> <p style="text-align: center;">【評価方法：観察・発言・作品・ワークシート】</p> <p>支援</p> <p>音の高さや長さを変えて、雰囲気が変わることを感じられるようにする。</p> </div>

(3) 本時で目指す子どもの姿

◎友だちの作品や意見を参考にして、旋律や音色を少しずつ変え、自分の思いやイメージに近づけようとする姿